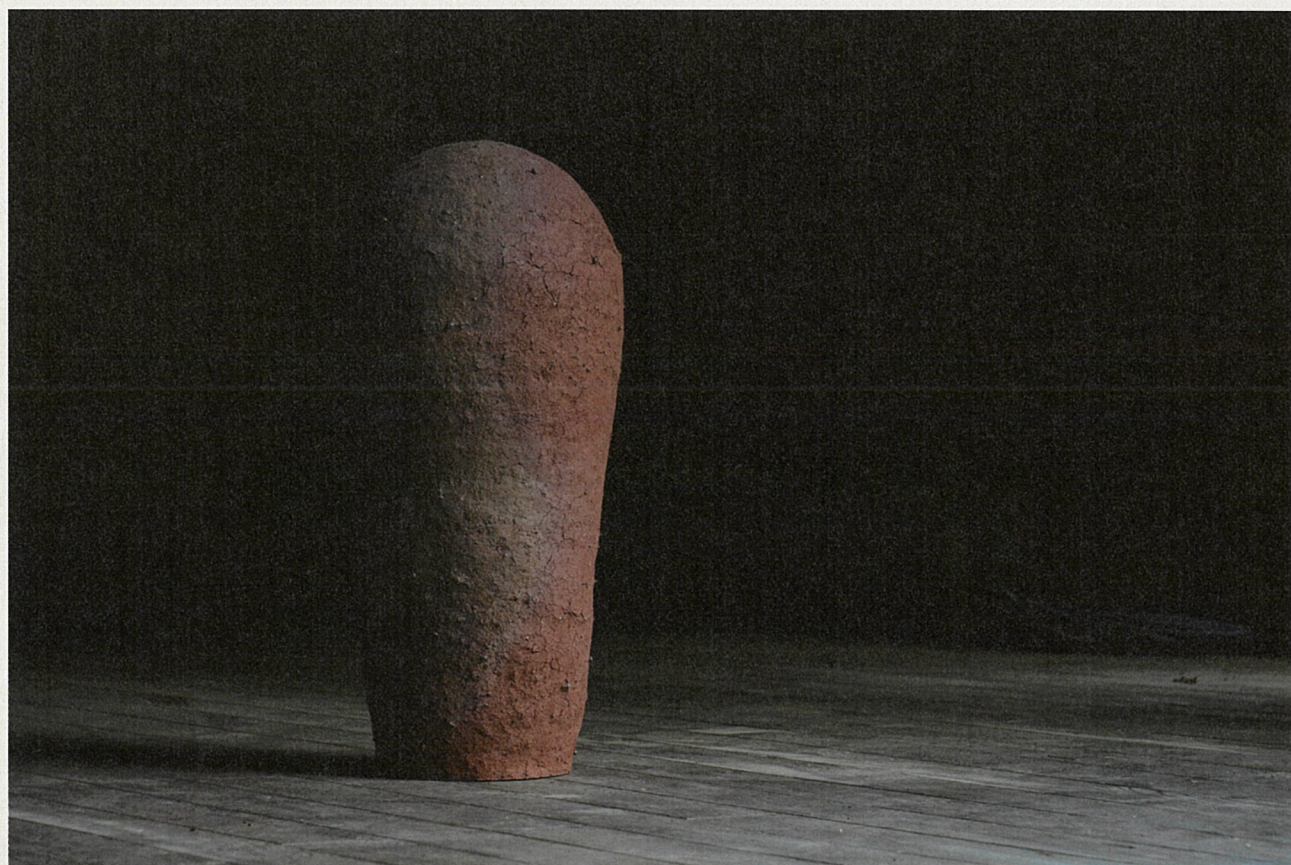


彫刻家・濱田卓二は、あらゆる造形の根源にある「○△□」をテーマに、土を焼き上げて作品を制作しています。「焼き物」の技術は独学で学んだという濱田だからこそ注意深く土の声に耳を傾け、土に触れながら独自の手法を築いていったのでしょう。その結果生まれた作品は、森の中、河原、都市空間、子どものおもちゃ箱など、どんな場面に置いても、そこに調和が生まれます。そして、それぞれがその場にくつろぎ、やがて静かに語らい始めます。手を通して土とコミュニケーションを図り、心に浮かぶままを形にする濱田のスタイルは、縄文人の土器づくりを想起させます。古の人々が遺した縄文土器には、理屈も、器の概念もありません。しかし、土のことを知り尽くしていなければ生み出せない造形物です。そんな縄文土器に畏敬の念を抱きつつ、かつて縄文文化が栄えた朝日村の土を使い、新たな「○△□」に濱田が挑んだのが本展です。作品制作と並行し、朝日村の縄文土器の胎土を見つけることを夢見て、土を掘り、粘土にして焼成を繰り返し、専門機関の分析まで試みた一年間の記録でもあります。

○△□-hito-



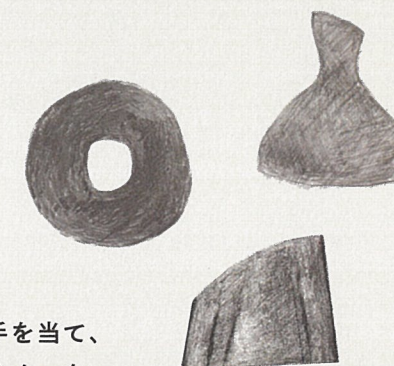
○△□-Breath-

○△□-Stratum-

8月20日の夜、温度の下がった窯から作品を出し、ひび割れゆがんだ土の表情を見てふと心に湧いて出たことばがある。

「これでいいのだ」

昭和に見たステテコ腹巻姿の頼りない父親像のこととともに、これまで飲み込めなかった世界観が、ずっと喉を通ったように感じた。自らで掘り、育てた土が織りなす表情はどれも愛おしい。まだ温かい作品に手を当て、ひび割れゆがみながらも、かたちを留めてくれた土に感謝の気持ちが絶えなかった。決して作品の出来に満足した訳ではないのだが、「これでいいのだ」と少し視界が開けた夜だった。



制作の記憶より



濱田卓二 HAMADA Takuji

1984 京都府出身  
2009 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科彫刻専攻修了  
2013 新制作展 新作家賞('14)  
2018 くにたちアートビエンナーレ第2回野外彫刻展 入選  
2019 松本芸術文化協会芸術賞  
2022 個展「土のかたち-○△□-」  
(安曇野市中央図書館「みらい」) 安曇野市教育委員会主催  
第3回枕崎国際芸術賞展 協賛賞

詩話 土たちの  
濱田卓二 展